AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2020.3) 令和元年度:6.

脳卒中患者における排尿自立指導料導入前後での尿路感染発症の現状と課題

大宮 剛, 日野岡 蘭子, 和田 直樹, 柿崎 秀宏

脳卒中患者における排尿自立指導料導入前後での尿路感染発症の現状と課題

〇大宮剛[1)]　日野岡蘭子[1)]　和田直樹[2)]　柿崎秀宏[2)]
1) 旭川医科大学病院看護部　2) 旭川医科大学腎泌尿器外科学講座

【目的】脳卒中は早期尿道カテーテル（カテーテル）抜去が困難な疾患の一つである。排尿自立指導料算定開始に伴い病棟カンファレンスでカテーテル抜去是非の検討を行ってきた。算定前後でカテーテル留置期間が短縮されたか、また尿路感染症防止に寄与しているかを検証した。

【方法】算定開始前後1年間に入院となった脳卒中患者（開始前後で各133、147名）のうちカテーテル留置を行った患者を対象とした。カテーテル留置日数および有熱性尿路感染症（fUTI）発生について検討した。カテーテル留置期間およびfUTIの発生率に関してt検定、x2検定を行った。本研究は本学倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】対象患者数は算定開始前後でそれぞれ89名、105名であった。平均カテーテル留置期間は算定開始後、有意に短縮した。（13.8±11.0 vs 9.5±7.2日）。fUTI発生は算定前後で14名（15.7％）、4名（3.8％）であり、有意に減少した。fUTI発生患者ではカテーテル留置期間が長く（10.8 vs 17.7日）、入院時に自分の名前を言えない患者ではfUTIの発生率は高かった（5.3 vs16.0%）。

【考察】指導料算定開始に伴い病棟カンファレンスを行ったことで看護師のカテーテル早期抜去への意識が向上し、行動化に繋がったと考えられた。重度の意識障害のある場合、カテーテル抜去後のfUTI発症に留意する必要がある。